

すずのき台保育園

森の木とみんなをつなぐ プロジェクト 活動報告書

（令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業）



活動報告書

テーマ

「木」（森林など）

テーマ 設定理由

これまでの活動の中で、園舎や遊具など、こども達の身の回りにあって 日常で触れる多くのものが木の素材でできていることに気づいたこども達は、木がもともと生き物であったことを知り、「木」への興味関心が高まりました。そのため、そのワクワクをさらに深めるべく本テーマを設定しました。

実施期間

2024年10月～2025年1月迄 計 6回実施

問い

以前より、木育活動を行っていましたが、制作物で使われている木はどこから木ているのか？

こども達も、職員も疑問をずっともっていました。

「それなら見に行こう！」

という声があがり、今年度本事業を活用して今年度の事業を活用して木こり遠足が実現しました。

遠足から始まるストーリー

この遠足をきっかけに、子供たちのアイデアやひらめきを活かして物語が広がっていきました。木とふれ合うことで、自然や資源の大切さを学ぶだけでなく、子供たちの想像力や創造力を引き出す教育的な活動となりました。



ステップ1

木のふるさつを見に行こう！大自然に身をおく・森に身を置き五感を通じて体験する



実施日：2024年10/11

参加者：5歳児クラス

準備物：遠足グッズ、軍手、ヘルメット等

実施方法：大型バスで移動

・園を8時半に出発し、奥多摩に10時過ぎに到着しました。山の案内から始まり、一人一人生きている樹にノコギリの切込みをいれ、最後はみんなで間伐体験を行い、木を一本切り倒しました。

・その後、広場でお弁当を食べ、沢やツリーハウス、大きな岩など、森の中を目いっぱい探索しました。

子供達のコメントや様子

- ・木を倒すと「木を切る音や倒れる瞬間がすごい迫力だった！」、「木を切るのって大変なんだね」との声があがりました。
- ・倒した木の皮をめくり「ペリペリと剥けて楽しい」「皮をむいたら水がついているよ」「つるつるになった」「皮に穴が開いているよ、眼鏡みたいだね」と発見したことを教えてくれました。
- ・倒した木の香りをかぐと「スズノキの匂いがするー」との声があがり、子供達の中で森と遊び場の木材とが繋がった瞬間でした。
- ・森の中で安全に過ごすために、事前に園できめた決め事を子供達同士で確認しあっている様子がありました。

職員の気づき

木こり遠足では、こども達が遊具と森のヒノキの香りが同じだと気づき、それを自ら言葉にしたことが印象的でした。また、大自然の中で五感を使った体験は、子供たちに自然を大切にする心を育む貴重な機会となりました。

ステップ2

遠足の絵を描く



実施日：2024年10/16、10/17

参加者：5歳児クラス

準備物：白画用紙（八つ切り）、
黒サインペン、水彩絵の具等

実施方法

- ・10/11に行った「森の遠足」について、描画活動を行った。
- ①どんな遠足だったかを話しながら、森の様子を思い出してみる。
- ②どの場面を描くかが決まったら、黒サインペンで下書きをする。
- ③絵の具で色付けをする。

子供達のコメントや様子

・遠足の話し合いでは、「おべんとうたべた」「ツリーハウスにのぼった」という声が多かったが、「きがいっぱいあった」「きがたかかった」「きをきったところはあかるくなってた」という森の様子に話がつながってきたので、木の高さや色やにおいについても聞いてみると、「はっぱは、こいみどりだった」「きは、こげちゃいろかな？」と、細かい描写についても声があがっていた。

・「おおきいきをかくから、がようしをたてにしてもいい？」といい、自分が描きたい森のイメージをしっかりとって、画用紙の向きを変えていた。画用紙を横にして、横長に木を描いている子どもたちもいて、「横なの？」と聞くと、「きをたおしたところだよ」と、間伐体験についても表現していました。

・絵の具での色付けでは、「このみどりじゃなくて、もっとこいみどりだったなあ」と、緑だけでも、自分のイメージに合った色を見つけることにもこだわっていました。

職員の気づき

・子どもたちの豊かな表現力に圧倒されました。大自然の中での体験が子どもたちの心に残り、それぞれに表現できることにつながるのだと実感しました。一人ひとりが感じたことがそれぞれに違って、上手に描くことではなく、よりよい体験が積極的に描こうとする気持ち、表現しようという描画活動になっていたことに感動しました。

ステップ3

皮剥き体験～育てるきりかぶ



実施日：2024年10/18

参加者：3－4歳児クラス

準備物：遠足で切った丸太、シート、水等

実施方法：

- ・前の週に奥多摩の木こり遠足で、子供達が切り倒した丸太を運んでいただき、新鮮なうちに皮剥きをし、汚れを洗い流しました。

子供達のコメントや様子

- ・3歳児のこども達は、初めて嗅ぐ「ヒノキの香り」に驚き、目を丸くして感動した様子を見せていました。また、「なんか果物みたいなにおいだね」と独特な感想を口にするなど、それぞれの感性が輝いていました。
- ・丸太を洗う作業は大人が担当する予定でしたが、4歳児クラスが自ら「ぼくたちが丸太を洗ってあげる！」と提案し、水場まで運んで洗い拭く作業を行いました。重さに「おもーい」と言いながらも懸命に取り組む姿が印象的でした。
- ・こども達は、水場で丸太を洗う際に「つるつるで気持ちいいね」「きれいになったね、偉いね」と、丸太に対して優しく声を掛けていました。

職員の気づき

木の皮をむく過程を見守る中で、こども達の集中力や想像力が育まれる様子に感動しました。自然の触感や匂いを通じて、五感を使った体験が彼らにとって貴重な時間となったことを実感します。

ステップ4

園庭に山と川づくり



実施日：2024年11/28

参加者：4－5歳児クラス

準備物：育てた丸太、シート、塗装道具、自然オイル塗料、
アクリル絵の具、自然素材等

実施方法：

・みんなで育てた丸太を使い、園庭に山と川をつくることにしました。土で築山をつくり、丸太には塗料をぬって土に埋め込んで固定させ、石などの素材もペイントして配置し、雨の日に水溜まりができるような川をつくりました。

子供達のコメントや様子

- ・土がトラックから流れ出てくる様子を「わーすごーい」とみんな歓声を上げてみていました。
- ・こども達から「なんで丸太に色を塗るの？」という素朴な疑問が出ていました。木育の先生は「長く外で遊んでもらうために、色を塗るよ。その方が長持ちするからね」と優しく説明してくれました。
- ・こども達は、自分で描いた石の配置場所に「うーんここに置こうかな～」などと悩みながら、おいていました。
- ・丸太も子供達で協力して運び、土を掘って設置しました。

職員の気づき

剥いた丸太や、石に絵を描いて並べたりする姿を見て、それぞれが自分の個性を作品に表現しており、それをみんなで協力して完成させるまで、一つひとつの作業を頑張る子どもたちの集中力や工夫を見ることができました。

ステップ5

剥いた木の皮を肥料に！畑ワゴン・落ち葉ワゴンを作ろう①



実施日：2025年1/17

参加者：5歳児クラス

準備物：板材、コンポストワゴン・畑ワゴン用木材、シート、
塗装道具、自然オイル塗料、布の端切れ等

実施方法

・丸太から剥がした皮をどう使うか考えた結果、コンポストを作って皮や落ち葉を堆肥にすることにしました。設計は専門家にお願いしましたが、桤板のカットや塗装はこども達が協力して行いました。

子供達のコメントや様子

- ・2年前から木育活動の中で「ノコギリで木を切る」ことを経験済みの子供達は、それぞれ慣れた様子で手際よくきっておりました。
- ・紙やすりで面取りに熱中する子、服が汚れるのも気にせず塗料を丁寧に塗る子、ノコギリで線に沿って正確に切る子など、集中するポイントが異なる様子が印象的でした。
- ・塗装作業中には「ペンキのおいが強いね！」「木を塗る前の色ってこんなに白いんだ」「赤いペンキは色が濃く見えるね」などのこども達の感想が飛び交い、楽しく作業に取り組んでいる姿が見られました。

職員の気づき

これまでもノコギリを使ったことがある子達だったので、本当に手際が良く、職員も驚きました。積み重ねがきちんと身体に染みついて経験値につながっていることを体現する瞬間でした。

ステップ6

剥いた木の皮を肥料に！畑ワゴン・落ち葉ワゴンを作ろう②



実施日：2025年1/31

参加者：5歳児クラス

準備物：コンポストワゴン畑ワゴン材、シート、釘、
げんのう、ベニヤ板等

実施方法：

・前回切って塗装した板を使い、今度は釘をつかって組立、完成させました。

子供達のコメントや様子

- ・職人の先生が、釘打ちの仕方を指導してくれました。「これはトンカチではなくげんのうっていうだよ」という話、トンカチというものは造語だということをこども達は目を丸くして聞いていました。
- ・「げんのう」の使い方、平らな面と凸面があり、平らな面でくぎを打ち込み、くるっとひっくり返して凸面で最後仕上げることで、げんのうのたたき跡が残らないという技をおしえてくれて、こども達はその「くるっとひっくり返す」動作がたまらなく特別感がある様子で真剣に取り組んでいました。
- ・「釘がなかなか入らない」「たたくの大変だけど、楽しい」「もっと釘打ちしたい」「完成したら皮をいれよう！」「皮をビリビリに破って入るとよさそうだね」などの感想がでていました。



職員の気づき

遠素材を手に取りながら自然の循環の仕組みを体感し、自分たちの手で枠を作り上げていく姿には強い意欲と好奇心が溢れていました。専門の方との触れ合いも新鮮で、話を聞く姿勢や安全にくぎう打つ姿に成長を感じました。

振り返り(職員による)

【3歳児クラス職員】

丸太が思った以上に重くて、子どもたちと一緒に保育者も驚いたことと、もじやもじやの木の皮をむいたときにツルツルの木になったことに、二度びっくりしてしまいました。子どもたちは、本物の木に触れる機会を持つことができ、体感したことが心にもしっかり残った活動になったと思います。このプロジェクトに3歳児クラスもかかわれたことで、4歳児、5歳児の子どもたちともつながることができて、うれしく思いました。今後も、さまざまな体験活動に参加できることを期待します。

【4歳児クラス職員】

丸太の色塗りをするとき、同じような茶色でも塗料の色の違いがあることに気づき、色ごとにグループに分かれて色塗りができるように工夫していました。色塗りでは、木の部分が見えなくなるまで、時間を忘れるぐらいも根気よく集中して塗ることを楽しみ、丸太を運ぶときには、二人組になってどの位置にどの丸太を並べるかを相談しながら、池の形になるように考えて置いていました。5歳児クラスがペインティングしたカラフルな石が入ると、「みずがはいったら、ほんとうのいけになるね」と、イメージを膨らませていて、色塗りだけでなくさまざまな体験が形になって完成していく過程が、子どもたちの想像力にもつながっていました。

【5歳児クラス職員】

5歳児クラスの子どもたちは、普段から新しいことに挑戦したり、作ったりすることが大好きだったので、大自然で大きな木を切るところから、川や畑、落ち葉ワゴンを完成させるところまで、すべての行程に関わることができ、とっても喜んでいました。

今回のワークショップに参加したことをきっかけに、子どもたちたちの頭の中で作ってみたいと思ったものを形にする姿が、遊びの中でも多くみられるようになったように感じました。卒園前に、みんなで協力して作り上げた一つの思い出になりました。

【保育主任】

木育に触れる活動を行なってきましたが、今回の木こり遠足では、本当に多くの学びがありました。特に、保育者たちが、子どもたちと一緒に五感を研ぎ澄ませて大自然を感じる機会となり、「木育とは何か」を体感できたことが何よりも良かったと思います。このダイナミックな体験を通して、子どもたちの一人ひとりの感じ方から見られた豊かな表現にも気づくことができました。幼児クラスでは、今回のさまざまな活動を通して、自然と出会い、体験することで自然の大きさや不思議さを感じることにつながりました。



2025/春 現在(キャベツを栽培中)